

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所名 グループホーム 里の家

日付 平成18年8月17日
特定非営利活動法人
評価機関名 ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験15年
評価調査員 ケアセンター介護支援専門員
経験5年

自主評価結果を見る (まだリンク先はありません)

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

外部評価の結果

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

グループホームの周りは、ちょうど田植えの時期で、広々とした水田に真っすぐに植えられた苗の列をあちこちに見る事ができる。鳥のさえずりが聞こえ、道行く人も農作業をする人もことごとくゆったりとしていて、古き良き時代の原風景の中にタイムスリップしたような気がする。そんな恵まれた環境の中に、まさにその名の通り「グループホーム里の家」がある。

「いらっしやい!!暑いなあ、男性利用者が椅子をすすめてくれる。厨房では、職員にははやや年輩の女性が飲み物の心配をしてくれる。近所のボランティアの方かと思っていたら、利用者の一人だった。比較的認知症軽度の利用者が多く、男性2人女性7人の調和も程良く、どこかの家を訪問したかのような気がする。「本当はグループホームの看板も出たくないんです。ちょっと家族の多い普通の家みたいになりたいと思っています」と言う代表者の言葉に納得する。

こじんまりした1ユニットの家庭的な良さが生かされている。リビングの壁には、正月、節分、ひな祭り、花見といった四季折々の行事を楽しんだ利用者の写真が季節毎に整理して掲示してある。

「イベントが皆大好きなんです。職員も利用者も、次の計画を楽しみにして生き生きとした毎日を過ごしてもらいたいと思います」と職員が笑顔で話してくれた。今は夏祭りの準備中。家族も草刈を手伝ってくれるとの事。

イベントを通じて職員、利用者とその家族の気持が一つになり、心の通じ合った強い絆が生まれ、心晴らしいと思った。

特に改善の余地があると思われる点 次のような提案をした

自分から歌おうとしないが、熱心に歌詞の本を見ている利用者がいた。横に座って歌ってみると、小さな声で一緒に口ずさむ。だんだん笑顔になっていく。小さめの音量でさりげなくBGMを流してみてもどうでしょうか? 誰かがふとその音楽を聞いて歌い出し、いつの間にか皆で大合唱という事もあるかも知れません。

食事作りに労力を使う事なく、出来るだけ利用者に関わりたいたいとの思いから、通常は給食制度に委託して、たまに手作りの日や外食の日を取り入れているとの事。しかし、1ユニットでもあり、農業の盛んな地域性を生かし、徐々に手作りの食事に切り替えてはどうでしょうか? 手伝える利用者も多いので、一緒に食事を作る事がひとつのリハビリになります。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
	代表者は笠岡市介護相談員として各施設を回って来て、認知症の人への関わり方によって、「笑顔が見られなくなり、反対に表情さえもなくなってしまう」という現実を見てきた。そして仕事をしながら自身の母親の介護も経験し、在宅介護に限界を感じた。このような経験から、「その人がその人らしく堂々と暮らせる場を作りたいと思った」と言う。職員は利用者の心に寄り添って優しい関わりの出来る人、思いを共有出来る人になってもらえるよう厳選したと苦労話を語ってくれた。利用者にも無理強ひせず、心に寄り添うケアを目指そうと、管理者と職員のチームワークも良い。		

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
	「耳が遠いのでドアを閉めると聞こえ難い」と心配する利用者の出入口はドアがなく、暖簾を掛けている。玄関ポーチには人が通ると音がする機器を設置し、利用者が外に出ると職員はさりげなく見守りをする。利用者は自由に出入りすることができる。居室にいる人、食堂の椅子に腰掛けている人、ソファでうたた寝する人、皆が思い思いに過ごしている。		
	リビングルームの大画面プラズマテレビの前には、水戸黄門と相撲の時間になると皆が集まり賑やかだ。男性の利用者2人で将棋を指す事もあるそうだ。「利用者をしめつけないよう心掛けています。グループホームが自分の家だと思ってくれたら嬉しい。入居者も職員も大きな家族のような感じで、助け合って暮らしていきたい」と言う代表者の言葉を思い出した。どこにでもある当たり前の生活が、ここにはある。		

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物物の支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
	「動いているのが好き、じっとしていると落ち着かない」。そんな利用者には上手に声かけして家事を手伝ってもらおう。テーブルを拭く、配膳をする、洗濯物をたたむ。草抜きが好きな利用者には草取りを頼む。やりたい仕事を見つけた利用者は笑顔で応ずる。「今までずっと働いてきたから、もう何もしたくない」と言うそんな利用者には、気の向いた時、その気になった事をしてもらう。「特に買物の日は決めていません。買物には行きたくない人がいるかも知れないから。でも買いたい物がある時は、個別に対応しています」。今どう思っているかを大切に今の気持ちに寄り添って、うまく能力を引き出している。職員は部屋別の担当者を決めて責任を持ってフォローしている。さらに今を良く知るには、これまでの人生を知ることが有効だ。昔からの積み重ねの上にある。家族に働きかけて、昔の利用者の事を色々聞いてはどうだろうか?。また、違った角度から利用者に接することができるかも知れない。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か		
	設立後まだ1年にもならぬ若いグループホームだが、通常困難と思われる外部との交流がうまくできている。単独で運営していて、多くの関連機関を持つ法人と言う訳でもない。しかし、皆で一つの家族になりたいという信念の下、積極的に外部に働きかけている。見学希望があれば、利用者の反応を見ながらホームを開放する。年間イベント計画を立て、職員も利用者も家族も巻き込み、皆で役割を分担し協力する。		
	家族は職員や他の利用者とも親しくなり、気軽に面会に来るようになる。「花見の時は家族も参加し、総勢20人を超えました。夏祭りには、地域の人にも声かけしようと思います。利用者、職員、家族、さらには周辺地域まで巻き込み、どんどん輪が広がっている。2~3年後が楽しみです。		